

北海道苫前商業高等学校

報道記事

令和 6 年 4 月～

朝日新聞

北海道新聞

日刊留萌新聞

北海道通信社

日本農業新聞

苫前商高の北田さんと高橋さん

日商簿記検定3級合格

2級合格、資格取得を目指す



【留萌発】苫前商業高校（佐藤恵一校長、当時）の生徒が、日商簿記検定3級の試験に見事合格した。合格者は北田梨花子さんと高橋裕人さんの2人。北田さんは今後日商簿記2級の受験を目指しており、高橋さん

もビジネス関係の資格取得を視野に入れている。

日商簿記3級は、商業簿記の科目を受験し、規定以上の得点を獲得することで合格となる。日本商工会議所が行う社会人や大学生向けの検定であり、全国商業高校協会が行う全商簿記よりも難易度が高いとされている。

同校では、受験を希望する生徒に対し、放課後などの時間を利用して講座を開くなどの試験対策を行っている。

北田さんは1年生で合格した北田さん（右）と高橋さん

した。今後、年内の日商簿記2級の受験を目指しており、将来は会計の仕事に就きたいと話す。

高橋さんは2年生の冬に合格。昨年11月ごろから寮での自主学習に励んでいた。自主学習では「専門用語などでつまずくこともあったけれど、先生に教えてもらいながらコツコツ進めていった」と振り返った。今後、ビジネス関係の資格取得を視野に入れている。

講座の担当教諭は「今回の合格は何よりも生徒たちの努力の成果だと思う」と述べ、2人の合格を喜んだ。

苫前商業高校で入学式

昨年度3倍の18人入学

募集活動が実を結ぶ

留萌管内公立高校の入学式が8日に留萌、羽幌、天城（板野成人校長）の入学式が、8日午後1時半から5校、9日に天城高校で行われ、6校合わせて257人が希望を胸に高校生活のスタートを切った。

今年の新生は留萌が147人、羽幌が44人、天城が28人、遠別農業が13人、天城が7人となっている。同校は、平成30年度に、



苫前商業高校の入学式で拍手の中入場する新入生たち

留萌高校で入学式

147人が新生活スタート

留萌高校（瀬澤共喜校長）の入学式が、8日午後1時半から行われた。真新しい制服に身を包んだ新入生147人が吹奏楽部の演奏とともに入場。父母、教職員らが拍手で出迎えた。担任教師から名前を呼ばれると、1年生は大きな声で「はい」と返事してその

の声を積極的に生かし、高校の取り組みについて、地域住民にの深く理解してもらうとともに、地元小中学校との連携を強め、同校の生徒やOBの協力を

校を道庁先に選ぶ地元の子供たちを増やすことを目的に、保護者や地域住民の中から任命した委員で構成する学校運営協議会を、学校に設置するコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入。

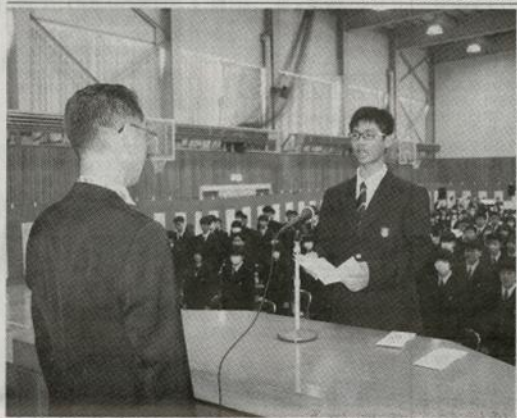
初めての試みとして、苫前中学校で学校説明会を開催。高校生力「TOM ACADEMY」を出店して、地域のイベントを共に盛り上げるなど、地域と共に発展する活動を継続して展開。

同日の入学式では、保護者らの大きな拍手に迎えられ、真新しいブレザーの制服に身を包んだ新入生が入場していった。

板野校長は「入学おめでとう。教職員一同、心から歓迎する。挑戦と努力を続けることで、自分の殻を破ることができる。前向きな学校生活を送ってほしい」と式辞を述べた。

続いて、新入生代表の秋山七海さんが「勉学に励み、悔いの無い高校生活を送りたい」と宣言。

来賓による祝辞では、福士町長が「ほかの学校では経験できない、地域に溶け込んでいく高校ならではの学びがある。人との交流を通じてたくましく成長しながら、焦らず、一歩ずつ前に進んでほしい」と、森



（右）新入生を代表して宣誓する留萌高校の福岡君

再輸入品と灯油の輸入11億5千万円

留萌港の貿易実績

関税税関札幌税関支留萌出張所の発表によると、留萌港の2月末の貿易実績は、輸出は前年同月より11億5608万5千円、前年同期と比べて10億2213万5千円増、8・6倍増えた。

輸入品目は、主要品目以外その他（再輸入品、灯油のみ）。前年同期より10億2213万5千円増加した。輸出は前年同期も実績がなかったため、増減なしとなっている。外国貿易船の入港は石炭1隻、石油製品2隻の計3隻で、前年同期より2隻増えた。（森康太）

マチの春イベントにぎわう

苫前商高生「コーヒーどうぞ」



桜祭り会場でコーヒーなどを販売した「苫カフェ」の高校生

桜祭りでカフェ出店

【苫前】第50回古丹別緑ヶ丘公園桜祭り（実行委主催）が、同公園で開かれた。町内外からの900人が屋

外での焼き肉や歌謡ショー、カラオケ大会を楽しんだ。12日の催し。園内に約千

本あるサクラのうち、ソメイヨシノや八重桜が咲く中、参加者は焼き台を囲んだ。ビールを片手に思い思いにジンギスカンや海産物の炭火焼きを満喫した。ステージでは町民有志のバンド「とままえプラス」も音色を披露し、会場を盛り上げた。

商工会女性部や青年部の露店のほか、苫前商高生が「苫カフェ」を出店し、飲み物やアイス、スイーツを販売した。店頭の生徒たちは「コーヒーいかがですか」などと元気にPRし、石井里佳さん（3年）は「お客さんから『頑張ってるね』と声をかけてもらい、カフェも繁盛して完売したのもあってうれしい」と笑顔を見せた。

（森麻子）

祭りに若いサクラ咲かせ

苫前商高 TOMA CAFE

地域行事に参加・運営協力

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は12日、苫前町内で行われた古丹別桜祭りにおいて「TOMA CAFE」を開いた。1、3年生の32人が参加し、

コーヒーや菓子笑顔で提供した「写真」。

生徒のコミュニケーション能力の向上と、町民に苫前商の活動を知ってもらおうことを目的に始まった「TOMA CAFE」。本年度1回目となる今回は、町内の古丹別緑ヶ丘公園で行わ



れた桜祭りに参加した。

あいさつ練習から始まり、開店後は授業で作ったタルトなどの菓子やジュース、コーヒーを笑顔で提供した。コーヒーは卒業生が経営するカフェから仕入れた豆を手順に抽出したもので、香りに誘われて多くの

人が来店。閉店までに全ての商品が完売した。

生徒はカフェスタッフとして携わったほか、ステージでの催しのジャンケン大会やカラオケ大会にも積極的に参加。ステージでは苫前商業高のPRも行い、学校紹介をしたあと「緑ヶ丘公園のサクラは散ってしまったけど、私たちがサクラを咲かせます」と用意した桜吹雪を客席に向けてまき、会場を盛り上げた。

宮本磨日子教頭は「年々生徒がスキルアップし、上級生が中心になって初めて参加する1年生に丁寧なレクチャーをする場面が目立った」と生徒の成長を語った。

苫前商高 苫前中で学校説明会

苫商ライフを楽しもう

高校生が学校の特色PR

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）の学校説明会が5月23日、苫前町立苫前中学校で開かれた。写真。中学1～3年生約60人が参加する中、高校生5

人が学校の特色を紹介した。

地元の高校への進学者をさらに増やそうと、町、苫前中、苫前商業高が連携して前年度から始めた説明会。

苫前中の卒業生4人と、町出身の1人が、苫前商業

高の教育課程や商業高校の特色、卒業後の進路や地域と連携したイベントの内容などを伝えた。

町の文化や歴史を学ぶ「とままえ学」、販売実習会、自転車ツーリングなど特色ある取組に、中学生は興味を持って聞き入り「苫商に興味を持った」「高校生の説明が楽しかった」など感想を述べた。

苫前商業高の宮本磨己子教頭は「実際にこれから志



望校を考える中学生には良い刺激になったと思う」「発表した5人にとっても、中学生が笑顔で話を聞いてくれたことや自分たちの言葉で高校生活の楽しさを伝えることができ、充実した表情をしていた」と話した。

苫前商高 町内農園で作業

生産者の思い伝えたい

カボチャ2000株植える

【留萌発】苫前商業高校

の理解を深めた。

(板野成人校長)は6月11日、町内の仲谷農園でカボチャの植え付けを行った。2年生6人が2000株のカボチャを丁寧に植えるとともに、生産者の説明を聞き、地域の農作物について

苫前町の1次産業について実習を通して理解を深める地域学「オロロンデザイン」は、販売実習会などの販売の機会において、生産者の思いを添えて苫前町の商品を消費者に届けるとともに、地元素材を生かした商品開発につなげることが目的。

最初に農園の仲谷康弘さんが九重地区で植えられている作物の種類、米作りについて説明。

米作りは天候に左右されること、苫前のコメの知名度を上げたいことなどを

伝えた。農業機械にも触れ、生徒たちはトラクターに試乗し写真。このあとカボチャの苗2000株を丁寧に植えていった。

宮本磨巳子教頭は「前年度の2年生は17人おり、2000株の植え付けが2時間足らずだった。ことしはその3分の1の人数で、時間が足りるか不安だったが、6人はあっという間にこつを覚え、前年度以上の早さで作業を進めてくれた」と話した。

植えた2000株のカボチャは、9月の収穫を予定。9月27日に札幌大通ピッセと苫前商業高校の2会場で行われる販売実習会で生徒がデザインしたラベルを貼り販売する。

また、今後の「オロロンデザイン」では、8月に酪農実習・漁業(水産加工)実習・工場見学を行う。



(3)

(第三種郵便物認可)

小平高等養護オビリンピック

体力づくりの成果存分に

苫前商高生も加わり親睦

【留萌発】小平高等養護学校(齋藤利文校長)は6月21日、同校で第29回体育大会「オビリンピック」を開催した。全校生徒がソフトボール投げ、チーム対抗リレーなどに挑んだ。苫前商業高校(板野成人校長)の生徒16人も参加し、玉入れを通して交流を深めた「写真」。

大会は、日頃から取り組

んでいる体力づくりの成果を披露し、団結力を高めることがわらい。例年の運営支援とともに、パートナーティーチャー事業による連携を図っている苫前商業高の生徒も参加した。齋藤校長はあいさつで、挑戦することの重要性を示し「日頃の成果を十分に発揮してほしい」と激励した。



当日はあいにくの雨。一部競技を別日に振り返る中、体育館で交流競技の玉入れに臨んだ。

両校の生徒が思い思いの投げ方で紅白の玉を籠に入れ、親睦を深めた。エキシ

ビジョン戦では両校の生徒が混合チームを結成。小平高等養護の保護者チームと競い合った。

このほか、100メートル走やソフトボール投げ、チーム対抗リレーなどに挑戦。両

校の生徒や教職員が互いに応援し合うなどして大会を盛り上げた。

また、26日には本大会では実施できなかった1500メートル走などの競技と閉会式を実施した。



**穏やかな気候の下2年生が
カボチャの苗植え作業に汗** 苫前商高

【苫前】苫前商業高校(板野成人校長)の2年生6人がこのほど、町九重地区にある仲谷康弘さんのほ場で、カボチャ「くり將軍」の苗植えを体験。雲間から

青空がのぞく穏やかな天候の下、生産現場で農業に親しむ2年生たち

仲谷さんの畑でカボチャの苗植えを体験する苫前商業高校の2年生たち

しみながらマチの特産品について理解を深めた。

カボチャの苗植え体験は同校2年生を対象に、マチの漁業や農業を学ぶとともに実際に生産者の下へ出向き、見学などをしながら商品がどのようなルートを巡って消費者の手に渡るのかを調査することが目的。各種活動を行っている「地域学オロロンデザイン」の一環として行われた。

生徒たちは仲谷さんが見せた手本を参考に、マルチ穴あけ器を使い穴を空けた後、50センチ間隔で空けられた穴に苗を植える作業にチャレンジ。最初は見よう見まねでどこをどう手をつきだした生徒たちも、慣れてくると進んで作業を行い、スピードもアップ。大きく育ったカボチャとの再会を楽しみにしながら、2千株の苗を定植した。

収穫したカボチャの一部は、9月27日に同校と札幌市中央区の大通ヒッセの2カ所で開催する販売実習会での出品を予定している。

(雪田康一郎)

生徒製作あんどん 13日夜に練り歩き

苫前商業高校で学校祭

【苫前】苫前商業高校(板野成人校長) 学校祭前夜祭の13日、生徒たちが製作したあんどんが今年も古丹別

市街地を練り歩く。

同校の学校祭「苫商祭」は、今年で58回目。あんどんの練り歩きは令和3年、21年ぶりに復活した伝統行事で、当日午後6時ごろに同校を出発し、古丹別市街地を練り歩き同校へ戻る。

昨年まで町公民館で披露していたYOSAKOIソーラン演舞は、同校グラウンドで披露する。また、新たな取り組みとしてキャンプファイヤーも行う。

14日の本祭は、同校でクラスパフォーマンスやフリーマーケットを実施する。

(雪田康一郎)



オーストラリアに短期留学する三好さん (左) と村上さん (右)

苫前商業高校国際交流事業 三好さんと村上さん豪州へ 富士町長に留学の抱負語る

【苫前】苫前商業高校(板野成人校長)の国際交流事業で、夏休みを利用しオーストラリアに研修派遣される三好光さん(17)と村上さん(16)の2人が9日、富士町長を表敬訪問し、海外研修の抱負を語った。

国際交流事業は英語圏の国に生徒を派遣し、英語とその文化に直接触れることで広い視野と国際感覚を持つ人材を育成することを狙いに実施している。

午後4時から行われた表敬訪問には、開発法起教育長や宮本磨日子教頭らが同席。三好さんは「知識を生かしてさまざまな人と話し、文化の違いも見てみたい。たくさんの人と仲良くなりたい」、村上さんは「英

検取得へ向けた勉強の成果を発揮して、交流を通じて文化を学びたい」と、それぞれ抱負を語った。

富士町長は「これからの海外研修の期間は8月3日までの10日間。2人は、まな経験をしてきてほしい。ひと回りもふた回りも大きく成長してほしい」と激励した。

海外研修の期間は8月3日までの10日間。2人は、ホストファミリーにホームステイし、英語のレッスンを受けた後、アボリジニ文化に触れるなどして、英語力に磨きをかけ見聞を広める。(雪田康一郎)

海外で見聞広げ成長を

苫前商高 豪州国際交流参加生徒

苫前町役場を表敬訪問



(左から)三好さん、富士町長、村上さん

【留萌発】苫前商業高校 旬、苫前町役場を表敬訪問（板野成人校長）の国際交流した。2年生の村上芽華さん（三好光さん）が7月上旬と三好光さんが富士敦朗

町長と懇談し、オーストラリアで国際交流をする意気込みを語った。

富士町長は高校生生活やオース

トラリアで楽しみにしていることについて質問。村上さんは地元の苫前町立古丹別中学校出身、三好さんは大阪出身であること、2人とも英検にチャレンジしていることを報告した。

村上さんは「言葉は通じないこともあるかもしれないが、頑張ってコミュニケーションを取りたい」と意気込みを語り、三好さんは「いろいろなオーストラリアの景色の写真を撮りたい」と楽しみにしていることを伝えた。

国際交流を担当する英語科の松下希教諭は「海外で見聞を広げて、大きく成長してほしい」と期待し

た。

今後、2人は8月3日にオーストラリアのブリスベーン市へ向かい、大学生との交流、市内観光などを行い、8月10日に帰国する予定。

子ども映画会
8月6日開催

訓子府町図書館

【網走発】訓子府町図書館は、8月6日午前9時30分から町公民館講堂で夏休み子ども映画会を開催する。

「パウ・パトロール ザ・マイティ・ムービー」を上映する予定。入場無料。

2024年7月26日(金) 北海道新聞 掲載

自転車で200キロ走破目指せ！ 苫前商高生、ツーリングに出発

森麻子 有料記事

2024年7月25日 20:52(7月25日 21:59更新)

あとで読む



2泊3日のツーリングに出発する苫前商高の生徒



【苫前】苫前商業高の生徒が24日、長距離自転車ツーリングに出発した。1～3年生の参加希望者16人が、26日までの2泊3日で約200キロを駆ける旅をスタートした。

長距離ツーリングは、同校の新たな特色を打ちだそうと2021年から同校と町教委が主催している。コースは毎年変えており、今回は日本海沿いのオロロンラインを南下して留萌市を経由し、空知管内沼田町と上川管内幌加内町でそれぞれ1泊した後、苫前に戻る約200キロの行程を設定した。

同校前で行われた出発式ではそろいのオレンジのTシャツ姿の生徒たちが「全力で楽しみたい」などと抱負を述べた。生徒代表の粕谷寿至さん（3年）は「（大雨の影響で）出発時間がずれたけれど、気にせず後輩にいい走りを見せたい」と力を込めた。

生徒たちは保護者や教員に見送られ、学校を出発。教員や町教委職員の運転するサポートカーに見守られながらゴールを目指す。

を判断する情報が不足して
いたので、投資に関する知
識を身に付けたい。もし実
想を述べた。

苫前商高 豪州短期留学参加で

生きた英語学ぶ機会に

生徒2人が富士町長表敬

【留萌発】苫前商業高校
(板野成人校長)の国際交
流に参加した生徒2人が8
月28日、苫前町役場を表敬
訪問した。2年生の村上芽
華さんと三好光さんが富士
敦朗町長へ短期留学の成果
を報告した。

2人は8月3日から10日



までオーストラリアのプリ
スベンにホームステイをし
ながら短期留学した。今
回、町長室を訪問し、現地
の文化や語学の成果につい
て報告。

町長にオーストラリア土
産のクッキーとコアラの人
形を手渡し、ホームステイ

先での楽しかつ
たことや、日本
食が恋しくなっ
たことなどを伝
えた。

三好さんは

町長にお土産
を渡す三好さ
ん(右)、村上
さん(中央)

「テキストで学んだ英語と
実際に現地で触れた英語と
は、使い方が少し異なるな
ど発見の多い留学だった」
と述べた。

村上さんは「日本と全く
風景が違うことや気候の違
いに驚いた。ホームステイ
先の家族に、日本語を教え
て、食事の時は日本語でい
ただきます・ごちそうさま
という習慣を覚えてもらっ
た」などと体験を話した。

11月1日には苫前町公民
館で開催される苫前商業高
校体験発表会で2人による
報告が行われる。

(第3種郵便物認可)

生徒がカボチャ収穫を体験

苫前商業高校 27日の販売実習で提供

【苫前】苫前商業高校(板野成人校長)の生徒が4日、町九重地区にある仲谷康弘さんのほ場でカボチャ「くり將軍」の収穫を体験。さわやかな秋晴れの空の下、生産現場で農業に親しんだ。

カボチャの収穫は、2年生6人を対象にマチの漁業や農業を学ぶとともに、実際に生産者の下へ出向き、見学などをしながら商品がどのようなルートを巡って消費者の手に渡るのかを調査することを目的に、各種活動を行っている「地域学オロロンデザイン」の一環。この日は、6月に苗植えを行ったほ場で収穫作業に取り組んだ。

生徒たちは、仲谷さんから緑色の表面が一部黄色に



仲谷さんの畑でカボチャの収穫作業に汗を流す
苫前商業高校の生徒たち

変わっていたり、ヘタが乾

いているなど、収穫に適したカボチャの見分け方を学んだあと、作業を開始。畑にしゃがみ込み、つるの中からカボチャを取り出

す係や取り出したカボチャのヘタをはさみで整える係、ブラシで泥を取り除く係、タオルで磨く係など、役割分担しながらカボチャの収穫作業にさわやかな汗を流した。

収穫したカボチャの一部は、27日に同校と札幌市中央区の大通ヒッセの2カ所で同時開催する販売実習「苫前市場」で提供する。今年は、手に取りやすくカットした状態での販売にも挑戦する予定という。

作業の終了後、仲谷さんは「たくさん売れるように頑張ってください」と、生徒たちにエールを贈っていた。

(雪田康一郎)

公民館駐車場
北建舗道に感

【羽幌】町教育委員会は

札幌市民に地元商品PR

苫前商高の
「苫前市場」 札幌と苫前で同時開催

【苫前】苫前商業高校(坂野成人校長)の販売実習「苫前市場」が9月27日、札幌市中央区の大通ヒッセ地下

販売実習会は、商品の仕入れや事前学習を通じて苫前町の特色と特産物に関する知識、地域と母校への愛着を深め、販売活動で苫前町をPRすることが目的。今年は、2年生1人と3年生15人が札幌会場で、1年生15人が母校でそれぞれ販売を担当した。

また、同校には休閑所も設置。趣味で茶会も主催する生徒が、温かい紅茶を提供し、世間話に花を咲かせるなど地域住民と交流を深めていた。

(菅田康一郎)



1年生が笑顔で接客した苫前商業高校の苫前市場



札幌市内の催事場で開かれた苫前市場(同校提供)

販売実習会は、商品の仕入れや事前学習を通じて苫前町の特色と特産物に関する知識、地域と母校への愛着を深め、販売活動で苫前町をPRすることが目的。今年は、2年生1人と3年生15人が札幌会場で、1年生15人が母校でそれぞれ販売を担当した。

同校も地元主産品でにぎわい、生徒たちは入場前から賑わった商品へのこたわ

苫前商高

【留萌発】苫前商業高校(板野成人校長)では、1日防災学校や酪農体験、加工場見学など地域と連携した様々な取組を行っている。

1日防災学校 自衛隊が協力

10月2日には、同校で1日防災学校を行った。本年度は初の試みとして、自衛隊留萌駐屯地の協力のもと、災害時の備えや避難所

道内各校 さまざまな 取組紹介



で役立つライフハック等について学んだ。

過去の災害派遣の実例や人命救助の実習、災害に役

立つ生活術について講義。北海道の厳寒期に避難する場合は、手袋や靴に雪が入らない工夫をするなどという話を聞き、生徒たちは冬に備えて日頃からの防寒着などの準備について理解を深めた。

宮本磨巳子教頭は「生徒は自衛隊車両への試乗にも興味を持っていた。生徒たちにとって日頃自衛隊と関わる機会は少なく、職業理解も深められる機会になった」と話した。

2年生地域学で 酪農の仕事体験

2年生対象の地域学オロロンデザインⅠ「酪農体験」が10月3日に行われ、生徒6人が酪農の仕事を実験した。



(株)箱柳牧場(丹羽秀樹社長)で行い、丹羽社長は大声を出さない、ウシの死角に行かない、人懐っこいウシはいたずらをするので気を付けてほしい」などと注意事項を伝えたあと、生徒6人が給餌、餌寄せ、哺乳、搾乳などの作業を体験。最初はウシの動きに驚いていた生徒も時間がたつにつれ慣れ、黙々と作業をこなした。

丹羽社長は「作業体験は人数が少なかつたこともあり、全員しっかりやっており、ありがたかった。家族を含め社内の6人が苫前商業高卒業生であるため、もし興味があれば入社してほしい」と話した。

工場見学班はチョコバナナパフェの製造工程を見学した。見学用白衣、食品衛生ヘアネットを着用し、アイスの材料づくり、機械による製造の様子に見入って

アイスクリームに加工、販売している。地元で取れた商品がどのように加工されているかを見学し、加工について現場の話を聞くことを目的とした。



10月7日には地域学オロロンデザインⅠ「加工場見学」が行われ、丹羽社長は大声を出さない、ウシの死角に行かない、人懐っこいウシはいたずらをするので気を付けてほしい」などと注意事項を伝えたあと、生徒6人が給餌、餌寄せ、哺乳、搾乳などの作業を体験。最初はウシの動きに驚いていた生徒も時間がたつにつれ慣れ、黙々と作業をこなした。

当日は加工場見学班と会社概要や加工の状況についてのスライドを視聴する班に分かれて、前半後半を入れた。アイスクリームに加工、販売している。地元で取れた商品がどのように加工されているかを見学し、加工について現場の話を聞くことを目的とした。

苫前商高 地元と札幌で販売実習

「市場」は大にぎわい

カボチャや新米、お菓子等

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は9月下旬、同校と札幌大通ヒッセ販売実習会「苫前市場」を開催した。苫前会場「写し」は1年生15人、札幌会場「写真下し」は2年生6人と3年生15人で販売。地のカボチャや新米、生徒開発したお菓子などが人で、多くの人が両会場をれた。



売。中でも、生徒が地域学「オロロンデザイン」において苫前町仲谷農園で植栽・収穫を行ったカボチャ

は「一個丸ごとだと食べきれない」というお客の声から、ことはカット販売を実施。札幌会場では早々に売り切れとなった。同じく仲谷農園が育てた新米も販売直前に精米した新鮮なもので午前中に売り切れるほど人気だった。

また、広報担当の生徒が、STVラジオオハ苫前市場をPRするメールを出したところ、番組を聞いた多くのリスナーが札幌会場・苫前会場に足を運び「番組を聞いたよ」と声をかける場面もあった。1年生にとっては初の販売会であり、



多くの客が訪れるようにと校舎内を飾り付け、カフェスペースを設営した。1年生の高橋呂玖野さんはおもてなし係として得意の紅茶を淹れてお客をもてなした。

2・3年生による札幌会場では道教委の中島俊明教場も訪れ、生徒の商品説明できた。

明を受けながら、町の特産品を購入。さらにSTVの明石英一郎アナウンサーも買い物に訪れ、生徒たちは番組での宣伝のお礼を伝えた。

宮本磨巨子教

した。
講演のあとは、協働的な職場づくりをテーマにグループ協議を実施。高校や特別支援学校の校長、上川・留萌・宗谷教育局の高

校教育指導班の職員もオブザーバーとして参加し、学校の規模や校種を越えて、いかに学校課題に向き合うかそれぞれの立場で意見交換を行った。

下川支部長は「セミナーを通して教職員が当事者意識を持ちながら働くことの大切さについて深めることができた」とコメントした。

苫前商高 体験発表会

課題研究の成果披露

地場産物で炊き込みご飯提供

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は1日、苫前町公民館で体験発表会を開催した。写真。全校生徒をはじめ保護者ら約90人が参加。地域で学んだことを発表したほか、課題研究で考案した炊き込みご飯を提供するなど個性あふれるプレゼンテーションを披露した。

なかでは、管内のカントや酪農体験について、3年生は「オロロンデザインⅡ」、札幌での販売実習会、近隣市町村の魅力化を図ることをテーマにした課題研究について発表した。

このほか、苫前町国際交流事業、商技部の取組についても報告した。発表後には販売会を実施。3年生の課題研究において商品化した「カボチャ蒸しパン」は町民に好評で、すぐに売り切れた。

1年生は企業・施設見学会で風車や漁協、町議会などで学んだこと、地域学「とままえ基礎」の歴史探訪で大正時代に町内で起きたクマ事件現場、神社へ行ったことを発表。地域学「とままえ基礎」で学んだ「豊饒太鼓」も披露した。

板野校長は「地域の皆さんの協力があってこそその教育活動の成果を発表し、多くの方々に見てもらえたことは大変光栄。管内唯一の商業科単置校として、苫前商業高だからこそのできる学びをこれからも継続し、地域・高校共に魅力化が図られるような教育活動を展開したい」と話した。

これまでの学校で行っていたが、ことしから公民館での開催とし、町民への呼

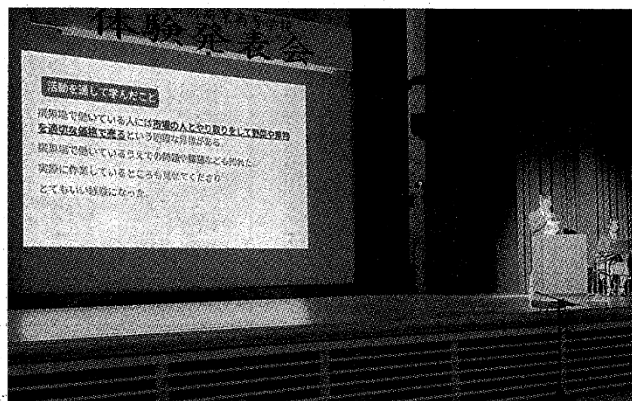
活動を通して学んだこと
民衆で使っている人とは食卓の人とをとりまわって食卓の豊かさを表現する機会がある
民衆で使っている人とは食卓の人とをとりまわって食卓の豊かさを表現する機会がある
民衆で使っている人とは食卓の人とをとりまわって食卓の豊かさを表現する機会がある

年、クラブ活動の充実や同

た表彰式に代表して出席し

に、也或言状りんと憂うこ

として「父兄よ」「長子の手助



新標識案や商品お披露目も

高 苦前商業 生徒が学習の成果報告

【苦前商業高校(板野成人校長、生徒39人)の動を通じて体験した成果を体験発表会が、1日午後1時から町公民館で開かれ、生徒たちが各種学習活動の成果を披露した。



新しいカントリーサイン案など生徒たちが学習活動成果を報告した苦前商業高校の体験発表会

この日は、1年生が北のこい漁業協同組合苦前支所や苦前町議会議場などへの企業・施設見学、苦前神社などの基礎歴史探訪、2年生はインターンシップ(職場体験)と、仲谷康弘さんのほ場でカボチャ収穫体験などを行った「地域学オロンデサイン1」3年生は販売実習「苦前市場」や課題研究について、それぞれ感想や次回への改善点、決算書を交えて発表。国際交流事業に参加した生徒による、オーストラリアへの短期留学体験報告や1年生の農産太鼓披露に加え、同校商技部が、空知管内沼田町や上川管内幌加内町を巡った自転車ツーリング事業について、写真や動画を紹介しながら報告した。

そのうち、3年生の課題研究では「肝試し炭鉱ツア

「かぼちゃ 蒸しパン」の開発について熱弁。保護者らの関心を集めていた。終了後は同館ロビーで販売会を実施。初お披露目となったカボチャの風味たっぷりの生地にカボチャあんを包んだ「かぼちゃ 蒸しパン」は、販売開始30分を待たず完売。炊き込みご飯の種類も試食も行われ、ショウワカの香りでアクセントを効かせた「タコの炊き込みご飯」、カボチャの甘味と

「や」北海道路線・廃駅しょうゆの香ばしさがマッチした「カボチャ炊き込みご飯」も好評で、試食した仲間さんも「味付けはばっ

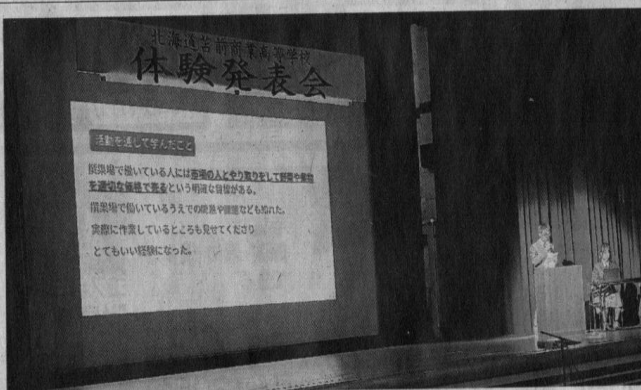
たりとおいしさに大評判。同公民館ロビーは、詰め掛けた地域住民でにぎわっていった。(雪田康一郎)

苫前の産業体験 商高生成果報告

【苫前】苫前商業高生が本年度取り組んだ学習の成果を報告する体験発表会が、町公民館で開かれた。生徒37人がステージに上がり、スライドを交えて発表した。

1日に実施。1年生は町内の企業や施設を見学した結果を発表した。北るもい漁協苫前支所や町議会、牧場などについて学んだことや考察などを

苫前商業高生が学習の成果を報告した発表会（同校提供）



報告した。風力発電用の大型風車については1基建設に約10億円かかることを紹介し「今後も建設計画はあるが、送電線がいっぱいでは風車を増やしたくても増やせない」と課題を示した。

3年生は札幌市で行った販売実習「苫前市場」について報告した。会場を訪れた保護者や地域の住民がうなずきながら聞き入り、生徒に大きな拍手を送った。

（森麻子）

漁師がトバづくり指導

苫前商業
高校3年 長年培った技術を学ぶ



磯崎さん（右）からホッケのさばき方を
教わる苫前商業高校の生徒（同校提供）

【苫前】苫前商業高校（板
野成人校長）の「ほっけト

バづくり」が、25日午後1
時半から町公民館生活技術
研修室で開かれ、2年生5
人が商品開発のヒントとす
るべく、ホッケのさばき方
やおいしいトバづくりのこ
つを学んだ。
マチの漁業や農業を学ぶ
とともに実際に生産者の下
へと出向き、見学などしな
がら商品がどのようなルー
トを巡って消費者の手に渡
るのかを調査することを目

的に、2年生を対象に各種
活動を行っている「地域学
オロロンデザイン」の一
環。

講師は町内在住の漁師磯
崎功さん。例年この時期に
苫前公民館講座やシニアス
クール事業の一環として行
われる「鮭トバづくり」で
も講師を務めており、秋サ
ケを使い、磯崎さんがブレ
ンドした特製の調味料で味
付けする鮭トバは参加者の
好評を集めている。

この日は、サケが不漁で
価格が高騰していることか
ら、ホッケを使用。磯崎さ
んがホッケのさばき方を実
演したあと、生徒たちが挑
戦。ほとんどの生徒が初め
ての体験で、作業開始直後
は手間取ったが徐々にこつ
をつかみ下処理が完了。さ
ばき終えたホッケは特製調
味料をまぶした。

ホッケのトバは、1週間
ほどの乾燥期間を経て完成
する予定。後片付けを行う
生徒たちは、どんな商品も
多くの手間と長年培った技
術によって作られることを
学んだ。など感想を話し
ていた。

（雪田康一郎）

2024年(令和6年)12月10日(火曜日)

2

町村版

北から南から

苫田商業高の秋山さんと佐藤さんが決勝大会進出

羽幌で建設業クイズ選手権



「コンストラクションクイズ選手権」決勝・苫田地区予選で優勝した秋山さん(左)と佐藤さん。

苫田商業高等学校の秋山さんと佐藤さんが、10日(火)午後、羽幌市で開かれた「建設業クイズ選手権」決勝大会で優勝し、優勝賞状とトロフィーを授けられた。

秋山さんは、苫田商業高等学校の2年生で、佐藤さんは同校の3年生。2人は、予選で優勝し、決勝大会に進出した。

決勝大会は、苫田地区予選の優勝チームと、苫田地区予選の準優勝チームとの対決。秋山さんと佐藤さんのチームは、決勝大会でも活躍し、優勝を果たした。

秋山さんは、優勝後、記者会見で「優勝は、チームのみんなのおかげです。これからも、勉強と部活を頑張りたいと思います」と話した。

佐藤さんは、「優勝は、自分たちの努力の成果です。これからも、勉強と部活を頑張りたいと思います」と話した。

優勝賞状とトロフィーを授けられた秋山さんと佐藤さん。

苫田商業高等学校の秋山さんと佐藤さんが、10日(火)午後、羽幌市で開かれた「建設業クイズ選手権」決勝大会で優勝し、優勝賞状とトロフィーを授けられた。

秋山さんは、苫田商業高等学校の2年生で、佐藤さんは同校の3年生。2人は、予選で優勝し、決勝大会に進出した。

決勝大会は、苫田地区予選の優勝チームと、苫田地区予選の準優勝チームとの対決。秋山さんと佐藤さんのチームは、決勝大会でも活躍し、優勝を果たした。

秋山さんは、優勝後、記者会見で「優勝は、チームのみんなのおかげです。これからも、勉強と部活を頑張りたいと思います」と話した。

佐藤さんは、「優勝は、自分たちの努力の成果です。これからも、勉強と部活を頑張りたいと思います」と話した。

優勝賞状とトロフィーを授けられた秋山さんと佐藤さん。

かぼちゃ団子作りに挑戦

【留萌市】かぼちゃ団子作り体験教室が、留萌市立第一中学校で開かれた。生徒らは、かぼちゃ団子の作り方を学び、実際に作って食べた。この日は、かぼちゃ団子の作り方を学び、実際に作って食べた。この日は、かぼちゃ団子の作り方を学び、実際に作って食べた。



市内の上田グループでかぼちゃ団子作り体験教室が開かれた。生徒らは、かぼちゃ団子の作り方を学び、実際に作って食べた。この日は、かぼちゃ団子の作り方を学び、実際に作って食べた。

とくに、かぼちゃ団子の作り方を学び、実際に作って食べた。この日は、かぼちゃ団子の作り方を学び、実際に作って食べた。

道教委 高校生チャレンジ

オリジナル商品をPR

苫前商業高生などが接客

道教委は13日から2日間、札幌駅構内催事スペースのどさんこプラザ札幌店で「高校生チャレンジinどさんこプラザ」を開催した。道立高校6校が企業と連携して開発した商品9種を販売。苫前商業高校など5校の生徒が接客を担当し、地場産物を活用した各校のオリジナル商品のPRに精を出した。

道教委は13日から2日間、札幌駅構内催事スペースのどさんこプラザ札幌店で「高校生チャレンジinどさんこプラザ」を開催した。道立高校6校が企業と連携して開発した商品9種を販売。苫前商業高校など5校の生徒が接客を担当し、地場産物を活用した各校のオリジナル商品のPRに精を出した。

道教委は13日から2日間、札幌駅構内催事スペースのどさんこプラザ札幌店で「高校生チャレンジinどさんこプラザ」を開催した。道立高校6校が企業と連携して開発した商品9種を販売。苫前商業高校など5校の生徒が接客を担当し、地場産物を活用した各校のオリジナル商品のPRに精を出した。



中島教育長に販売商品を説明する生徒たち

入りの口では、各校で制作したPR動画を上映した。

当日の販売・接客は、富良野緑峰高、留萌高、苫前商業高、更別農業高、根室高の生徒17人が担当。生徒

たちは「高校生が開発した商品を販売しております」

「お一ついかがですか」などと大きな声で接客した。

俊明教育長が視察に訪れ、生徒たちの懸命な商品説明に耳を傾けるとともに、各校の商品を購入し、商品PRに精を出す生徒たちにねぎらいの言葉をかけた。

文科省 キャリア教育優良表彰

道内 江別江陽中を選出

とうきび販売で勤労観養う

文部科学省は、第17回キャリア教育優良教育委員会、学校およびPTA団体等文部科学大臣表彰の受賞団体を決定した。道内からは、生徒とPTAの連携行事「とうきび販売」を通し

また、地元企業・野村

地域の伝統文化楽しむ

苫前商高 かるた大会



3人一チームで下の句かるたを楽しんだ

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は昨年12月24日、同校で第37回かるた大会を開いた。生徒は苫前町で継承されている下の句かるたで腕を競い合いながら、地域への理解を深めた。

同校は、下の句かるたが町の伝統文化として継承されていることを踏まえ、苫前北斗カルタクラブの協力のもと、例年かるた大会を開催している。生徒は、国語科の授業内で事前にかかるたについて学習したほか、休み時間を利用して練習してきた。

当日は、同クラブ会員3人が下の句かるたの読み手

として協力。学年ごとに1チーム3人で編成し、各チームが攻め、中間、守りの役割を事前に決めた上で、トーナメント方式で優勝の座を争った。

熱戦の末、1年生のチームが優勝した。

同クラブの渡邊育史会長は「今回は1年生のレベルの高さに驚いた。つい、試合に見入ってしまった」と振り返った。

また、昼休憩には地元農園の協力で、2年生が育てた力ボチャを教職員が力ボチャ団子にして提供。生徒らは、町の伝統文化と農作物を通して、地域への理解を深めた。

町村版

北から南から



高齢者宅周辺の除雪作業に励む苫前中学校の生徒や教職員ら



高齢者宅周辺の除雪作業に励む苫前商業高校の生徒や教職員

苫前町内の中高生が 高齢者宅で除雪ボランティア

苫前商業高校は30人が奉仕の汗を流した。苫前中学校は、15日午後1時から、16日午前10時から、両校とも、町内各所で除雪ボランティア活動を行った。生徒たちは、高齢者宅周辺の除雪に励んだ。

夏には地域の清掃活動を行っている同校恒例のボランティア活動。地域へ貢献することにより思いやり、心づきあいを養うことを目的に、生徒と教職員で実施している。

ボランティア活動に参加する生徒は、事前に除雪作業の注意事項を教わられた。当日は、生徒が30人、教職員が10人、合わせて40人が参加した。

午後0時半から同校生徒は、町内各所で除雪作業を行った。生徒たちは、高齢者宅周辺の除雪に励んだ。

苫前中学校は、15日午後1時から、16日午前10時から、両校とも、町内各所で除雪ボランティア活動を行った。生徒たちは、高齢者宅周辺の除雪に励んだ。

ボランティア活動に参加する生徒は、事前に除雪作業の注意事項を教わられた。当日は、生徒が30人、教職員が10人、合わせて40人が参加した。

初級支局
〒016-4105 留萌市5条2丁目
0164-621525
0164-621526

（苫前町一帯）

高校生が地域盛り上げ

苫前商高 町商工会青年部と

雪まつり初開催 宝探し等

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は2月21日、同校で苫前町商工会青年部と共催の雪まつりを初開催した。写真。古丹別

子ども園の園児や保護者ら



が参加。宝探しや雪合戦、コーンスープの提供などで来場者をもてなした。

イベントは、町商工会青

年部から町を盛り上げるこ

とと高校のPRを兼ねて、

高校生と商工会青年部によ

る雪像製作について依頼が

あったことが発端。雪像を

造り、古丹別地区の子ども

たちと雪まつりができたら

楽しいと考え高校からイベ

ントを提案。商業科の授業

でイベントを企画し、苫力

フェを同時に開催した。

当日は古丹別子ども園か

ら約25人の園児が来校。園

児はクマの雪像や町のキャ

ラクター「くまだとまお君」に大喜びし、高校生が企画した「宝探し」ではたくさんの菓子をもらって満足した。苫力フェ担当の生徒が振る舞うコーンスープを飲んで温まったあとは高校の教員との雪合戦などを楽しんだ。

生徒たちは、担当ごとに分かれて雪まつりを進行。

カフェ担当の生徒は訪れた町民に飲み物の注文を取ったり、空き容器を回収したりと奔走した。

板野校長は「多くの町民に来ていただけて感謝している。高校生の発想力、企画力は、大人にはない柔軟性がある。これからもビジネスの学習の成果を披露し、町に貢献できる機会を増やしたい」と話した。

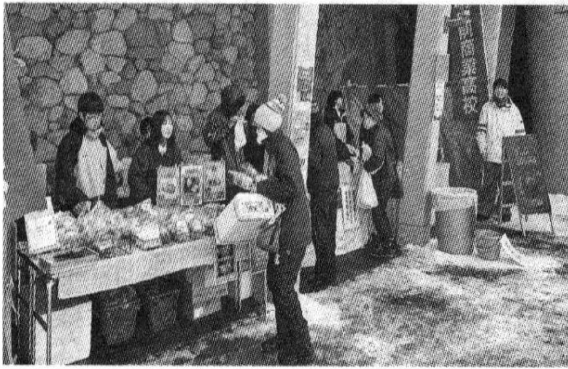
苫前商高 地域行事で苦力フェ

ほっと一息 運営に一役

コーンポタージュ等提供

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）は2月23日、苫前温泉ふわっとで高校生力フェ「苦力フェ」を開催したⅡ写真Ⅱ。1年生

9人、2年生3人が参加。第50回苫前町たこ揚げ大会



に合わせて行い、町内外からの多くの参加者が集まる中、コーンポタージュや紅茶などを提供した。

これまで、たこ揚げ大会での出店は経験がなく「寒い中で温かい飲み物を販売したらお客さまも一息つけるのでは」という生徒の発案から出店について準備を進めてきた。

当日は1・2年生が中心になって店舗を運営。コーンポタージュとオリジナルブレンドの紅茶、ホットコーヒー、苫前町の上田ファームのパン、カボチャを使った菓子の苫前商業高開発商品を販売した。

留萌高校商業研究部の生

徒も来店し、販売方法についての工夫やディスプレイについて自分たちの活動に生かせる点はないかなど、共にビジネスを学ぶ高校生としての視点で意見交換を行った。

宮本磨巳子教頭は「強い吹雪が舞うこともあったが、生徒は元気に声をかけ、たこ揚げ大会の盛り上げに一役買うことができた」と話した。

便り 9 号 発行

斜 里 高

【網走発】斜里高校（西方英幸校長）は、学校便り第9号を発行した。学習成果発表会での発表や展示品、「探究チャレンジャー」にオホーツク代表として参加した3年生2人の発表を紹介している。



表彰状を手にする苫前商業高校3年の(左から)林君、北田さん、石井さん、秋山さん、高橋君

町村版
北から南から

全商検定で3年生5人
3種目以上の1級合格

苫前商高

【苫前】苫前商業高校3年生の林裕野成人校長。3年生の林裕野君(18)、北田梨花子さん(18)、石井里佳さん(17)、秋山美海さん(17)、高橋裕人君(18)の5人が、公益財団法人全国商業高等学校協会(全商)主催の検定試験で、在学中に3種目以上の1級合格を果たし、このほど同協会と全国商業高等学校長協会から表彰された。これまでの努力が実った。これまではじめ、成長を見守ってきた教職員にも喜びの輪が広がっている。

同学校長協会では、商業高校在学中に、全商主催の検定種目9種類のうち3種目以上の1級合格者を表彰している。同校では、生徒が進学や就職に有利なように資格取得を奨励。検定試験に備えて補習を行うなど指導に力を入れており、5人の努力をたたえている。

今年は、タイピングによる制限時間内の文書作成能力や用語、漢字の読みなど、知識が求められるはじめ、ス文书実務検定をはじめ、経営活動に関する知識を問われる商業経済検定試験など、秋山さんが3種目、石井さんが4種目、北田さんと高橋君が6種目に合格。

林君はマーケティングやビジネス基礎など、商業経済検定試験全5科目を制覇した。「頑張るみんなの姿が刺激になりました。もう1種目合格したかったです」と秋山さん。石井さんは「先生が朝早くから指導してくれたことに対する感謝しがあります」と語る。北田さんは「この経験を生かしたいと思います。高橋君は「勉強が好きではなかった自分が勉強を好きになり、頑張れたのは先生たちのおかげです」とそれぞれ話す。林君は「先生たちが

生徒一人一人に向き合ってくれたことで自分も成長できました。支え合っている実感を持てる3年間でしっかりとニコリ。「新しいチャレンジができた」「マッソマンで得意分野を伸ばせた」などと高校生活を振り返りながら「苫前商業高校を選んで良かった」と声をそろえる5人は、笑顔を見せていた。(雪田康一郎)

羽幌支局
電話 078-4105 羽幌町南5条5丁目
FAX 0164-6215225番
0164-6819225番

苫前商高 羽幌警察署の依頼で

サイバー犯罪。ポスター作製 防止へ

1年情報処理の授業通し

【留萌発】苫前商業高校（板野成人校長）1年生が羽幌警察署の依頼による「サイバー犯罪防止ポスター」を作製した。17日にはデザインが採用された3人が酒井唯之署長へポスターを手渡した。

羽幌署から同校に依頼があり、1年生情報処理の授業で15人の生徒がパソコンでポスターを作製することとした。商業科の高橋健教諭が実際にあったサイバー

犯罪や、身近ななりすましメールなどについて説明し



「そうした犯罪防止のため

に高校生にもできることがあるのでは」と投げかけ、生徒たちは1週間ほどかけてポスターを作製した。

15人から17作品の提出があり、警察署による審査の

結果、高山太助さん、東海林桃果さん、伊藤千尋さんのポスターが採用されることになった。17日に3人が同校で酒

井唯之署長に対してポスターを贈呈し

（左から）東海林さん、高山さん、酒井署長、伊藤さん

た。

ポスターでは有名人のなりすましメールが詐欺につながっていること、サイバー犯罪の危険性、フィッシング詐欺に気を付けるよう呼びかけている。

生徒たちは、自分に実際に届いたなりすましメールを参考にし、多くの人が注目するデザインについて考えたことなど、作品への思いを語った。

宮本磨巨子教頭は「高校生のアイデアが地域住民の安全のために活用されうれしい。見た人にとっても親近感が湧くのでは」と話した。